平成24年７月

鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成23年度）

〔概 要 版〕

１．運転事故

○ 平成23年度に発生した運転事故は、件数が866件で対前年度6件（0.7%）減、死亡者数が314人で同39人（11.0%）減でした。（表1参照）

○ 乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表１：運転事故の件数及び死傷者数（平成23年度）

	件　数	（対前年度）	死亡者数	（対前年度）	負傷者数	（対前年度）
列　車　事　故※1	13 件	（△ 1 件）	0 人	（△ 1 人）	84 人	（＋76 人）
踏　切　事　故※2	331 件	（＋28 件）	119 人	（＋ 1 人）	93 人	（＋19 人）
うち踏切障害に伴う列車事故※3	2 件	（± 0 件）	0 人	（△ 1 人）	5 人	（＋ 2 人）
道 路 障 害 事 故	89 件	（△ 2 件）	0 人	（△ 1 人）	43 人	（± 0 人）
人 身 障 害 事 故	432 件	（△31 件）	195 人	（△39 人）	250 人	（＋15 人）
うちホームでの人身障害事故	209 件	（△15 件）	31 人	（△11 人）	179 人	（△ 7 人）
物　損　事　故	3 件	（± 0 件）				
合　　計	866 件	（△ 6 件）	314 人	（△39 人）	465 人	（＋108 人）

※1「列車事故」は、列車衝突事故、列車脱線事故及び列車火災事故の総称です。

※2「踏切事故」は、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故の総称です。

※3「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

図１：運転事故の種類別の件数及び死傷者数（平成23年度）

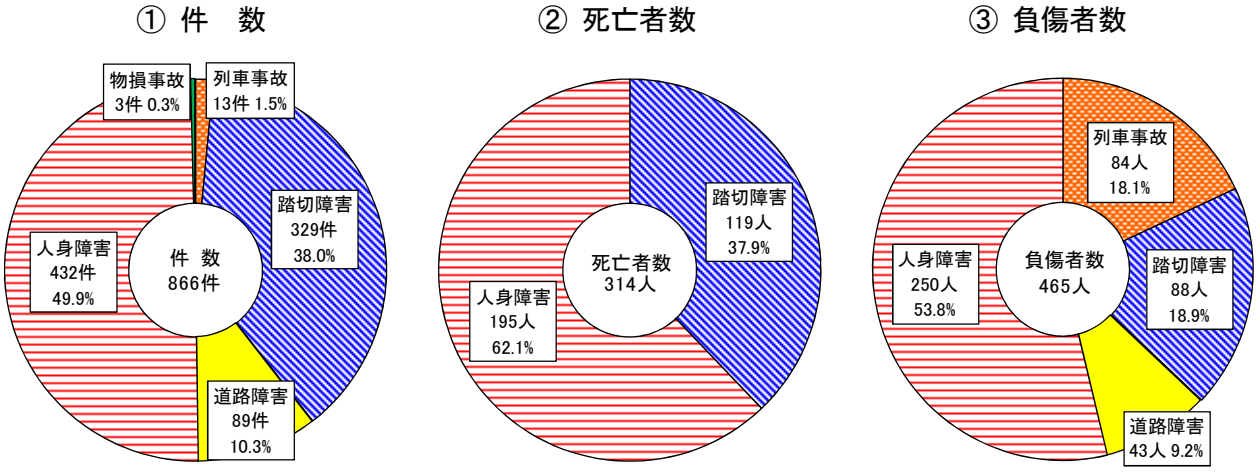
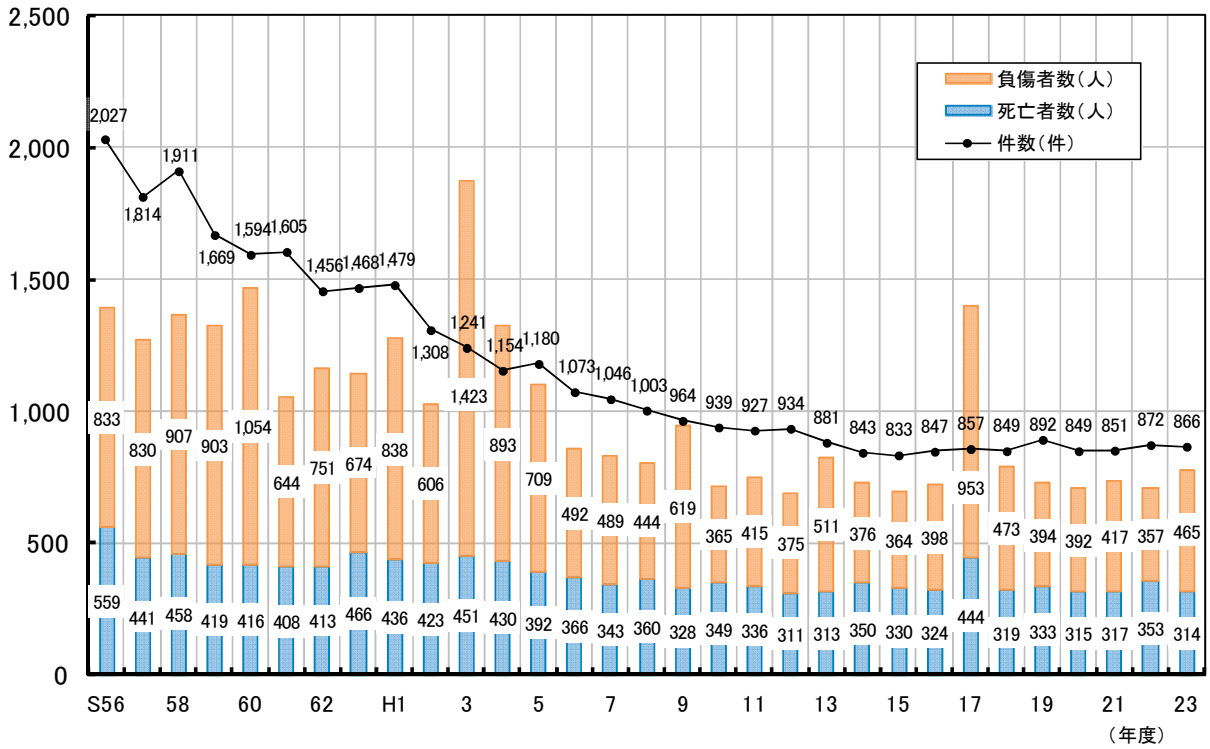


図２：運転事故の件数及び死傷者数の推移



２．踏切事故

○ 平成23年度に発生した踏切事故は、件数が331件で対前年度28件（9.2%）増、死亡者数が119人で同1人（0.8%）増でした。（表１参照）

３．人身障害事故

○ 平成23年度に発生した人身障害事故は、件数が432件で対前年31件（6.7%）減、死亡者数が195人で39人（16.7%）減でした。（表１参照）

○ ホームでの触車による人身障害事故は、件数が209件で対前年度15件（6.7%）減、死亡者数が31人で同11人（26.2%）減でした。このうち、酔客に係るものは122件（58.4%）で同16件（11.6%）減でした。（図４参照）

○ 線路内への無断立入り等での触車による人身障害事故は、件数が207件で対前年度21件（9.2%）減、死亡者が162人で同27人（14.3%）減となっています。（図４参照）

○ 運転事故が長期的には減少傾向にある中で、ホームでの触車による人身障害事故は近年増加傾向にあります。このため、ホームドア等の整備や、「プラットホーム事故ゼロ運動」等により、今後も事故防止を図っていきます。

図３：人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数（平成23年度）

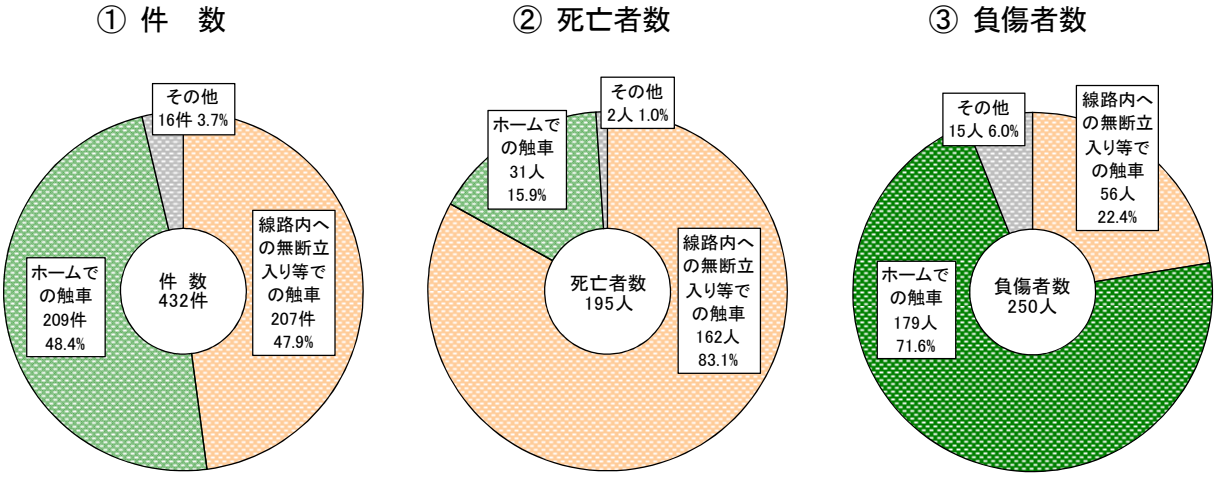
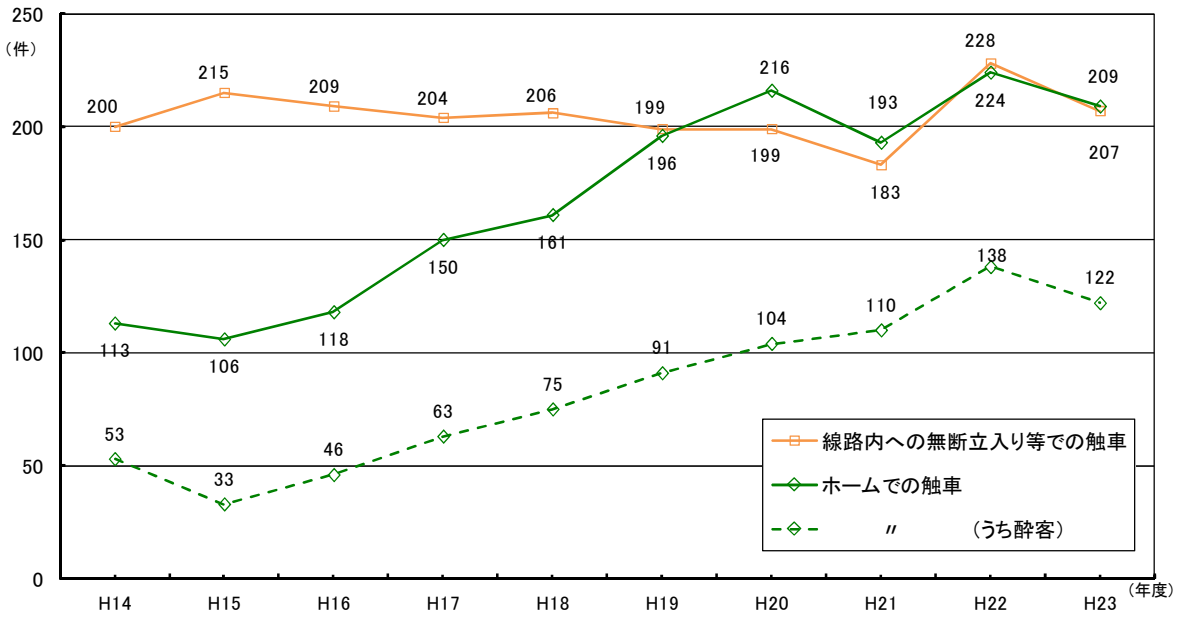


図４：ホーム等における人身障害事故件数の推移



４．高齢者の関係する事故

○ 踏切事故については、高齢者が関係するものが多く、平成22・23年度に発生した事故617件のうち306件（49.6％）を60歳以上の事故が占めています。（図５参照）

○ 線路内への無断立入り等での触車による人身障害事故については、平成22・23年度に発生した事故424件のうち240件（56.6％）を60歳以上の事故が占めています。（図６参照）

○ 高齢者の関係する事故に関しては、例えば、平成22・23年度に発生した運転者が60歳以上の自動車の第１種踏切道（遮断機、警報機ともに設置されている踏切道）における踏切事故114件のうち、停滞によるものが53件（46.5％）を占めるなど、特徴があります。（図７参照）

○ このような特徴を踏まえ、障害物検知装置の整備等の他、自動車が踏切道から出る前に遮断機が閉じたときにはそのまま進行し遮断機を自動車で押し上げて脱出できることの周知を図るなど、今後も事故防止を図っていきます。

図５：関係者年齢別の踏切事故件数（平成22・23年度計）

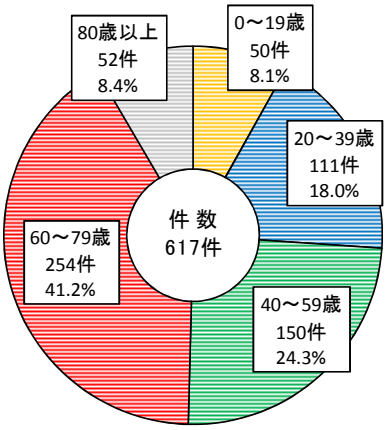


図６：線路内への無断立入り等での触車による人身障害事故件数（平成22・23年度計）

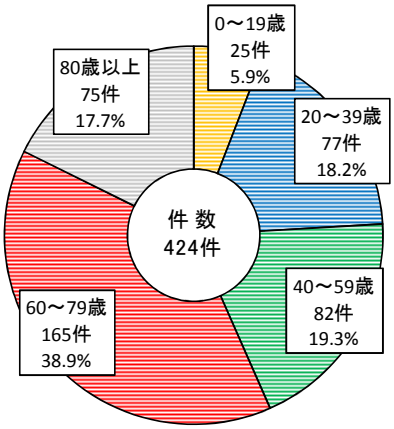
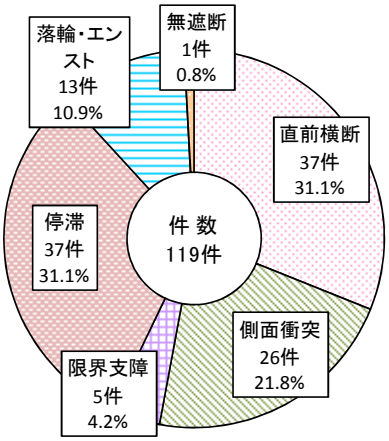
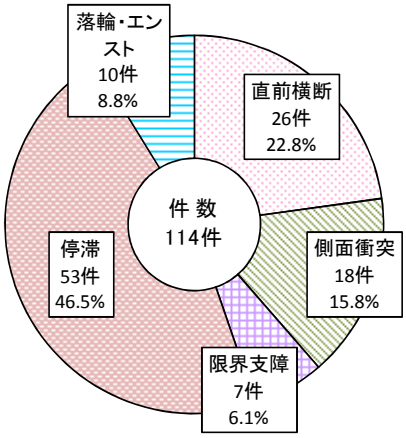


図７：第１種踏切道における自動車の踏切事故の原因別件数（平成22・23年度計）

（運転者が60歳未満）



（運転者が60歳以上）



５．輸送障害

○ 平成23年度に発生した輸送障害は5，278件で対前年度359件（7.3％）増でした。（図８参照）

○ 車両故障等による輸送障害のうち、車両故障によるものが881件で対前年度118件（15.5％）増、係員の取扱い誤り等によるものが270件で同64件（31.1％）増でした。

○ 線路内立入り等による輸送障害のうち、自殺によるものは601件で対前年度22件（3.5％）減の他、動物によるものが312件で同22件（6.6％）減でした。

○ 風水害、雷害、地震等による輸送障害のうち、降雨等の水害が571件で対前年度105件（22.5％）増、雪害が361件で同34件（10.4％）増、風害が337件で同56件（19．9％）増、地震が164件で同2件（1.2％）増など、自然災害によるものが増加しました。

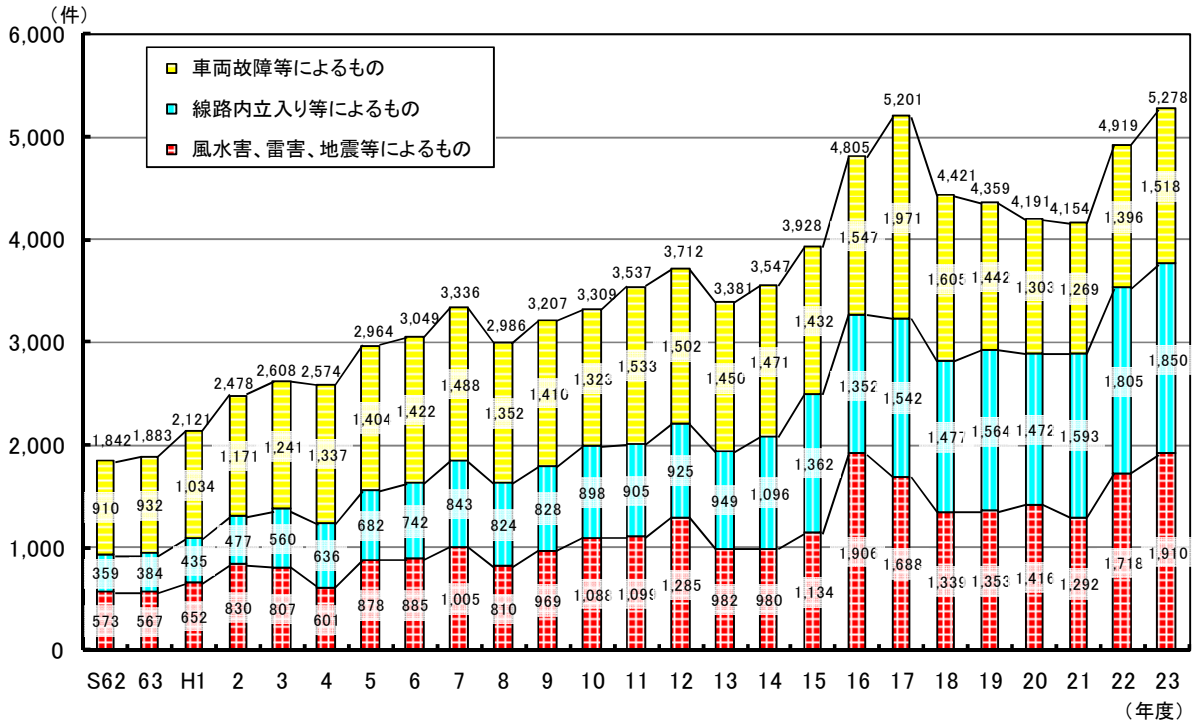



図８：輸送障害件数の推移